

建設業者も参入する活況の中…要注意!

高齢化社会ゆえの流れなのか? このお正月にも、お年寄りが餅をノドに詰まらせ「亡くなった。遺族は故人の住み家や持ち物の整理をしてくれてはならない。つらい作業となる。そんななか、遺品整理業の需要が高まり、同業を新規に始める建設業者が増えている。しかし、専門家は「不祥事が増加する」と指摘。また、金に目がくらんだ悪質な遺品整理業者の美態が暴露された。決して人ごとではない。



様々な種類が発売されているエンディングノート

悪質 遺品整理業者の

人の死後、家財道具などを処理するのが遺品整理だ。高齢者や自殺者の増加で需要は年々倍増している。昨春秋、空き家対策特別措置法が成立した。住

宅総数に占める空き家は1割を軽く超えており、景観・治安・防災など複数の面で問題視されている。今年6月ごろまでに施行される同法によって、解体や修繕に行政が口を出しやすくなり、空き家の解体の件数は増加するだろう。そこで建設業者が遺品整理業に進出するようになった。

実態



一般社団法人「遺品整理 一般ゴミ」と語る。「高齢者を集め説明会を開催」と偽り補助金詐欺

建設業者や解体業者が解体・産廃処理を手がけ、家財は遺品整理士や建前だ。「建設・解体

「新規事業への補助金は県だけでなく、市町村や

理士認定協会」の小根英人理事は「建物の解体と、残置物(家財道具など)の処分には決定的な違いがある。それはゴミの区分。解体で出たものは産業廃棄物だが、残置物は一般ゴミ」と語る。

業者には内々に残置物もゴミとして処理していたところもある。そのほうが手間も金もかからない(事情通)。さらに、タンスなどをその場で解体して木くずにする

居住者がいないまま約10年間放置されたアパート

「遺品整理」を出せば、従来通り1社ですべての仕事ができる(小根氏)悪質な業者も多い。注意が必要だ(塚田賢慎)

故人の遺志を尊重するため、生前から低料金で財産配分や葬式などの情報を記述する「エンディングノート」を作る動きも出ている。専門家としての「エンディングノートプランナー」の養成講座も昨年12月から始まった。小根氏は「悪質な業者の増加は、遺品整理業界全体の信頼を低下させる」と危惧する。注意が必要だ(塚田賢慎)

商工会からも出ることがある。遺品整理業は新規事業モデルとして認知が進みつつあり、補助金を受けやすい場合がある。それを逆手に取る悪質な業者がいることは事実(同氏)

借りた会場に高齢者を集めて遺品整理の説明会を開催した、といった名目で補助金を受け取りながら、実際は説明会など開かれなかったということもあるそうだ。

(塚田賢慎)